

# くらしの中から考える

## 結婚後の名字

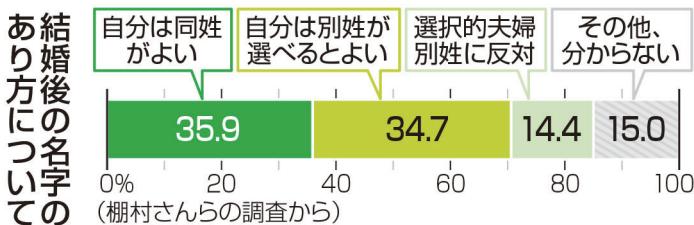
では、結婚したら夫婦は同じ名字にする法律で決まっています。一方で、それぞれが結婚前の名字を名乗ることもできる「選択的夫婦別姓」という制度を求める声も高まっています。六月に結婚すると一生幸せになれるといわれる「ジューンブライド」。皆さんもこの機会に名字のことを考えてみませんか。

## 家族の形は多様化 ◆

の下、妻は夫の家に入り、夫に従うことが求められた。戦後、民法が改正され、家庭制度はなくなった。結婚した夫か妻のどちらかの名字にそろえるというルールに変わった。ただ、二〇二〇年の厚生労働省の統計によると、夫の名字にする夫婦が全体の95・3%。多くの女性が結婚後、名字を変えているという

棚村さんらが二〇二〇年、二十ー五十代の男女七千人に聞いた調査では、全体の70・6%が選択的夫婦別姓に賛成と回答。そのうち、自分は同姓を選びたい、別姓を選びたいという人はおよそ半数ずつだった。一方、昨年度に内閣府が行つた調査では、回答した十八歳以上の男女約二千九百人のうち、夫婦別姓に賛成したのは28・9%。別姓を認めるところ、子どもと片方の親は違う名字になり、家族の一体感や

絆が薄れるという声も上がった。別姓を認めなくとも、結婚前の旧姓を職場などで使いやすくする法律を作った方がいいという意見もある。「家族の形が多様化し、「妻が夫の家に入る」という意識は薄ってきた」と棚村さん。「夫婦同姓でも別姓でも、誰もが自分らしくのびのびと生きられる方法を選べることが大事なのでは」と話す。



日本で、全ての人が今のような名字を使うようになつたのは百五十年ほど前から。江戸時代までは、名字を使えるのは武士など限られた身分の人だけだつた。明治時代になり、政府が國民を把握して税金を集めたり、軍に徴兵したりするために、一般の人にも家を表す呼び名として名字を使つことを義務付けた。夫婦は同じ名字にしなくてはならないと決められたのは一八九八年。民法が制定され、妻が夫の名字に合わせることになった。男性がリーダーとして家族をまとめる「家制度」

## ◆ 多くは女性が改姓

## 「家制度」の名残強く

行さんは「結婚したら夫の家に入るという、昔の考え方かなり影響力を持ち続けってきた」と話す。実際の家庭でも、夫は外で仕事、妻は家庭といふ役割分業がはつきりしていた。一九七〇〜八〇年代から、女性も働く人が増えた。名字

皆さんには結婚したら同姓、別姓どちらの方がいいと思しますか? 意見を見送ってください。紙面で紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼントします。応募は〒460-8511 中日新聞(東京新聞) 生活部「学ぶ」係=ファクス052(222)5284、メールseikatu@chunichi.co.jp pへ。QRコードからワークシート兼応募用紙もダウンロードできます。16日締め切り。